

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200620		
法人名	特定非営利活動法人ASA陽		
事業所名	グループホームけやき荘 A棟		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町小串郷1960-1		
自己評価作成日	令和2年 9月 27日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和2年 11月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、住み慣れた地域でその人らしい生活ができるよう本人の状況を常に考えくみ取りながら日々の生活の場に取り組んでいます。常に地域とのつながりを大切に行事等には積極的に参加し地域との交流を決めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清潔感の溢れた玄関では、吊るし飾りが訪問者を温かく迎えてくれる。施設長は、職員に資格取得を奨励し、利用者の高齢化や看取りを見据え看護師を採用する等、人員体制を整え職場環境の改善を行っている。また、職員や家族に向けて、クレームは宝と語り真摯に改善に取り組む姿勢は、職員や家族の信頼へ繋がっている。小学校の運動会競技に利用者が参加したり、保育園児やボランティアの訪問等、地域と積極的に交流を重ねている点は、ホームの強みである。運営推進会議は、地域の有識者が多く参加し、情報をもとに外出支援に繋がったり、開催当日に災害訓練を実施する等工夫が窺える。毎月災害訓練を行っており、利用者の命を守る取組みは高く評価できる。“自分がして貰いたい介護”を目指し、理念「ゆっくりのんびり生活」を実現するため、全職員で取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念はいつでも目に入るところに掲示し共有して実践につなげている。	理念は、新人教育や月毎の会議、日々の支援に於いても常に振り返る機会があり、職員に浸透している。職員は、地域に理解を得ながら、利用者のその日、その時の気分や体調に合わせて、本人本位に理念「ゆっくり、のんびり生活できるよう」を共有し、支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会にも加わり地域行事への参加、慰問等を積極的に受け入れ交流している。	自治会に加入し、回覧板や地元有志から地域情報を得る等、地域との交流は長く続いており、利用者は、運動会や家族と地元敬老会に参加している。保育園児やボランティアの訪問も多い。近隣からの野菜の差入れや、散歩途中には挨拶を交わす等、地域に密着しているホームである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練や慰問などの地域の方をホームに招いて参加して頂く事で良い関係が築かれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告や事業所の取り組み等を報告し意見を聞いている。	2ヶ月毎に行政や地域有識者、家族参加で開催しており、利用者状況、行事・研修報告を行い、地域情報等の意見交換があり、意見をサービス向上に繋げている。ただし、新型コロナ自粛以降は、書面により実施しているが、案内状のみの送付であり、メンバーに議事の内容を知らせていない。	新型コロナ自粛中の書面会議であっても、討議内容をメンバーにも知らせ、意見や提案を募る等、会議をサービス向上に活かす工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に行政、地域の方に参加して頂き施設の活動報告を行い意見交換や質問等に答え、協力関係を築いている。	役場担当課や地域包括支援センター担当者とは、運営推進会議時、ホームの現状を報告したり、実際に見学して貰っている。また、いつでも質問や相談できる関係にある。書類等の手続きは管理者が行い、行政からの研修案内には、積極的に参加する等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加している。スタッフ会議棟で意見を出し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化のための委員会は、運営推進会議を活用している。虐待チェックアンケートを実施しており、職員同士で注意喚起し、相互にフォローできる体制作りを努めている。職員は、外部研修に参加し、定期的に勉強会を行うことで、特に言葉掛けに注意し拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で声かけを行い虐待にならないようにスタッフ同士確認しあい、注意しながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政とのつながりを持ちながら地域の方々や家族の方の意見を聞いて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前や申込する前に本人家族に見学をして頂き契約説明を行い納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や相談を聞きながら家族が納得いくように説明している。	家族からの意見や要望は、来訪時に直接聞き取ったり、電話で受けている。内容は、申し送り帳やケース記録に記載し、職員間の共有を図っている。その後、会議で取り上げ解決方法の再確認を行っている。写真入りのホーム便りを月1回家族へ送付し、誕生日には家族を招待する等ホームでの生活を家族へ知らせる工夫を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見をスタッフ会議等で管理者は聞く機会を設けている。	行事の運営は、職員全員で話し合っ取り組んでいる。シフトを組む際は、家庭の事情を最優先し、パート職員の新たな採用で働きやすい労働環境を整備している。施設長は、職員の職場での様子に気を配り、個人面談を行う場合もある。新型コロナ禍の中、テレビ電話を導入してはどうかという意見が出ており、検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の相談があるときは個別に説明を行い要望を聞いて対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの職員の個性を生かしながら研修に参加しスタッフ会議等で報告し全員が仕事に対して理解をしていただくよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会やケアセミナー研修会等に参加し交流にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、本人、家族に見学して頂き不安な気持ちにならないよう声かけ傾聴し安心して頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の不安や要望等の思いを聞き安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向について職員間で情報交換し適切な対応が行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別性に合わせた内容で選択たみ裁縫等の作業をスタッフと一緒にいとも生活し支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際、施設での生活状況等を報告相談し本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事や慰問などの機会を作っている。馴染みの美容室など家族の協力が出掛けられている。	新型コロナ禍の現在は、交流を自粛しているものの、それまでは利用者が地元の敬老会や祭への参加を支援していた。行きつけの美容室がある人がいる他、家族と共に結婚式や法事に出席することもある。花を生けることが好きな人や編物をする人等、本人の入居前の趣味を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察し孤立しないように職員はさりげなく声かえし楽しい場が持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族が気軽に相談できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者の表情や言動を細かく観察し関わっていく事で本人の思いや要望を汲み取るよう努めている。	難聴の利用者には、ジェスチャーや筆談でコミュニケーションを図っている。利用者の言動から真意を測りかねる際は、家族へ尋ね、気持ちに寄り添うよう努めている。思いや意向を把握した際は、業務日誌や介護記録に記載し、職員間で共有を図ると共に家族にも連絡している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族よりお聞きしたり日常の会話の中から汲み取ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し残存機能を把握した上で安全安心に過ごせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にスタッフ会議を行いケアマネジャーを中心に現状報告や意見を出し合い介護計画を作成している。	本人・家族の要望を取り入れ、長期1年、短期3ヶ月の介護目標を作成し、実践状況は、個別日課表に記録している。ケアマネジャーは、3ヶ月毎に、総合評価表にてモニタリングし、職員からの気付きを基に介護計画の見直しを行っている。家族の意見・要望は、面会時や電話で尋ね、同意を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、申し送りノート、生活面の気づき等の記録をもとに介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向にあった支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に積極的に参加し交流の場を提供している。慰問に来て頂いた際は一緒に歌ったり踊ったり楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師を中心に本人、家族の希望に沿った医療を受けられるよう支援している。	看護師が、本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。歯科は、協力医による往診がある。看護師は、通院支援の他、利用者の体調管理や医療施設との連携に努めている。受診結果は、家族と職員で共有している。緊急時は、主治医の指示を仰ぐと共に、状況によっては救急搬送の体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化等を記録し看護師に報告、相談し連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や家族と連携を取り情報交換を常に行っている。いつでも受け入れる様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人や家族の要望を聞き施設ができる事を家族に説明し支援している。医療機関とも連携を取りながら対応に取り組んでいる。	入居時は、本人・家族の心情に配慮し、終末期に関して簡単な説明に留めている。その後、医師の判断にて家族の思いを確かめ、書面で看取りの同意を得ている。利用者の高齢化と看取りを見据え、看護師を採用し、本人・家族が最も望む終末期を迎えられるよう体制を整えている。職員は外部研修に参加して、意識を高め取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応ができるようAEDの講習会等に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に避難訓練や消火訓練を行い、消防署や地域の方も参加している。火災に関する点検も定期的に行っている。	年2回の予定で、消防署立会いと設備会社の協力の下行う夜間想定火災訓練は、多くのメンバーに参加して貰えるように、運営推進会議日に実施している。毎月、火元を変えての火災・自然災害訓練を、ユニット毎に行っている。強化ガラスや雨戸、発電機の増設、有事の際の近隣避難先確保や備蓄整備等、災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しながら言葉遣いに注意し楽しく過ごしていただけるよう声掛けしている。	利用者のパッド類は、カーテンで人目につかないよう配慮している他、職員が利用者の体調等について話す際は、イニシャルを使いプライバシーを損ねない対応を行っている。外部評価をきっかけとし、職員の守秘義務に関する誓約書に退職後の条項を加えている。ただし、便りに掲載する写真についての同意は口頭のみである。	利用者の写真掲載については、書面で家族から許可を得るとともに、用途別に検討を重ねることが望まれる。また写真のSNSへの掲載の禁止等、時代に沿った内容の見直しが待たれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話より本人の希望や思いを感じ取り個々に合った対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや手作業などできるだけ本人の意向に沿ってやりたい事、できる事を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誕生会や外出時の身だしなみを整えおしゃれを楽しむよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の体調に合わせた形態で提供し職員と一緒に食事片づけ等を行っている	食事は、ホーム内で職員が調理している。利用者の状態に合わせて、刻み食やトロミ食にも対応している。魚の嫌いな人には形状を工夫する等、利用者の好みに合わせた食事を提供している。季節に応じ、スイカやサツマイモ等のおやつを楽しんでいる。家族とともに外食に出掛ける利用者もいたが、現在は、新型コロナ禍で自粛している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の野菜を取り入れたり、肉、魚をメインに入れ栄養のバランスを考えている。食事摂取量や水分量は記録し本人の状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の状態に合わせて口腔ケアを提供している。夕食後、義歯はポリドント洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人一人のリズムを把握し、それぞれに声掛けしできるだけトイレでの排泄に心掛けている。	介護度が高い場合であっても、日中はトイレでの排泄を基本としている。自立している利用者もいる。排泄チェック表により、早めの誘導を心がけている。就寝中も自尊心に配慮した声掛けの工夫で、支援している。パッドの大きさについて職員間で検討し、利用者にな最適なパッド類を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便リズムを把握し飲食物の工夫、運動への働きかけをしている。医師にも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日頃から利用者の行動を観察することで一人一人のパターンを考え声掛けの工夫をしている。	週に2回の割合で入浴支援を行っている。また入浴後は保湿剤を塗り、乾燥を防いでいる。浴槽に浸かり、歌を歌いリラックスする利用者もいるが、介護度の高い人は、シャワー浴のみとなっている。また体調の悪い日や汗をかいた際は、清拭を行っているが、毎日ではない。	コロナ禍で外出の機会が減っている中、利用者がリラックスできる時間を作ることは、重要である。週2回の入浴に加えて、清拭、足浴、手浴等利用者が清潔に、気持ちよく暮らすことができるような取り組みが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて声掛けしながら、休息時間の提供や本人の寝具、パジャマ等で気持ちよく眠れる環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師、看護師に相談や説明を受けながら理解し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯たたみ等、本人に合わせた役割や楽しみ気分転換の場を提供し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞き取りながら体調に合わせて散歩やドライブ等、家族と協力しながら外出できるよう支援している。	年間を通じて、桜、菖蒲、コスモス等を見に季節毎に出掛けている。また小学校の運動会の見学や、地区のサロン、足湯の施設、出身地区の夏祭見物と積極的に外出支援を行っている。2月以降、新型コロナウイルスで自粛しているものの、ホームの庭での花見や散歩中に彼岸花を見つける等、季節感を味わうことができるよう支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば職員、又は家族に相談して購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から本人への電話等、すぐ対応できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節に応じたカレンダーを作成したり、掲示物など季節感を味わえるように工夫している。	玄関は人形の吊るし飾りで温かい雰囲気である。新型コロナ禍の現在は、ビニールカーテンで感染症対策を施している。テーブルに花を飾り、キッチンの調理の匂いは家庭的である。日差しは簾で防ぎ、換気や温度管理で快適に過ごせるよう工夫がある。利用者は、歌を歌ったり、洗濯物を畳んだり、自由に過ごす様子が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやソファ等に座る場所の距離感を配慮し居心地の良い居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものと使用し家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう支援している。	入居前の自宅の様子は、家族に尋ねており、ベッド以外は、テレビや筆筒、テーブルや椅子等、使用していた調度品を持ち込み、本人の動線に合わせて設置している。家族写真や百歳のお祝い飾りを掲示しており個性的な居室である。起床後の換気と定期的なシーツ交換、職員による清掃で清潔で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活ができるように職員同士が情報共有し、トイレ、リビング、居室等わかりやすく表示し、廊下、等には障害物がないようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200620		
法人名	特定非営利活動法人ASA陽		
事業所名	グループホームけやき荘 B棟		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町小串郷1960-1		
自己評価作成日	令和 2年 9月 28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念に基づいて、地域とのつながりを計測できるよう、老人化、婦人会、保育園等との交流を行っており、利用者の方が地域とのつながりが多くある。家族と本人とのつながりもより深く支援できるよう誕生会は家族を交えてお祝いの会を開催している。多方面から慰問の依頼が多く地域とのネットワークが広がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全体で共有し実践できるようにスタッフ会議等で詳しく意見交換を行い、理念に基づいた内容のサービスであるかを振り返り等で再認識して実践につなげるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者のホームでの生活が地域とのつながりを持ち暮らせるように家族や知人とのかかわりの支援や協力を得たり、地域行事等への参加や保育園、老人会等の慰問の継続での交流を通じて地域と事業所との継続したつながりを持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練等への参加していただき、ホームの現状報告、認知症の方への支援の方法など議題に取り入れている。又、利用者の方も一緒に夏祭り行事への参加にて交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、行政の担当者、総代、民生委員、老人会等の方々に出席して頂き現状報告、サービス状況報告を行ない話し合いや意見交換を行いサービス向上へつなげている。行政担当者より地域での認知症カフェ等の案内や介護保険に関することなど説明を受けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議ではホームの実情報告やケアサービスの内容など報告し、意見交換を行ったり介護認定や区分変更の申請提出時、担当者へ必要事項など伝達し連携を持つよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者への言葉かけや対応の仕方が身体拘束とならないよう、職員間で意識しながらケアに取り組むように努めている。又、研修会や勉強会への参加で身体拘束について理解を深めたりスタッフ会議においても事例の検討の認識をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議や申し送りなどで虐待の防止への取り組みを日々の実践のケアについて意見交換を行ったり、振り返りと改善に向けたケアに努めている。勉強会や研修会への参加にて虐待の防止について学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加や行政からの広報等により説明を受け学ぶ機会があり、スタッフ会議において、利用者の事例より制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの見学をして頂き、契約時はホームのケアの理念や方針など丁寧に説明を行い、重度化や看取りについての対応等も十分な説明をし、利用者や家族の意向等を聞き、理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は利用者の近況の説明など職員のほうより話しかけを行い、家族からの要望や疑問などないかお尋ねして話をしやすいような対応に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや申し送り、スタッフ会議で意見や提案を聞く機会があり、個別に聞き取りが行われ、職員の意見が反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に面談が行われ、個々の能力や勤務状態等把握されている。職員の就業時間は個別に調整がされ保育園の送迎の配慮など柔軟に対応されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて、研修情報などの説明が行われ、勤務体制について調整されている。職員個々の状況に応じた研修会への参加でスキルアップに向けての取り組みがされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ協議会が定期的開催され勉強会や意見交換を行いネットワークづくりに役立てられおり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族がホームの見学をして頂き話しやすい環境、場所煮て困っていること不安なこと、要望などに耳を傾け、思いを受け入れるよう、本人との信頼関係づくりを務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のこれまでの苦労や不安に耳を傾け共感することで信頼関係づくりに努め、今後の思いや要望を受け止めるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との話し合いや個別での話も聞きながら、現時点で最も必要とされていることを見極めサービスの利用などは活用できないか考えも入れながら対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事、得意なことに目を向け取り組んでもらったり、職員と一緒に作業する機会を様々な場面で持ちともに達成感を味わえるような関係づくりをし感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のホーム出の生活の様子を家族お伝えし、面会時はゆっくりと過ごされるよう配慮したり、外出や外食など自由にできられるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事や季節の催し物などへ参加したり、見物に行くことで、地域の方とである機会を作ったり、慰問での知人との交流の機会の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあった同氏の時間の提供をしたり孤立されないように場所のセッティングや職員の関わりを利用者同士の関係づくりの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の利用者の状況をお尋ねしたり、ご家族からの相談に応じた対応と支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所に至るまでの生活歴など本人や家族からの情報を聞き取り本人ができることを生かしながら、経過を見ながら、その時の希望や意向を聞き取れるよう関係を深めるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報の聞き取りから、利用されていたサービス内容の把握をし生活歴、暮らし方などから不安や困っていたこと等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や心身状態等の把握をし、本人が持っておられる能力やできられることを見極め支援に努め行動、表情などの些細なことへも気づけるよう職員で共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意向を職員間で把握し、日々の生活の様子を共有を行い、モニタリング、カンファレンスでの意見交換を重ねながら、本人や家族との話し合いも行い、現状に合わせた介護計画となるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康面のチェックや食事、排せつ状況など行い、生活の様子より、エピソードや言動等の気づきの記録し申し送りにて職員間で情報の共有し実践につなげたり計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの面会の申し出や外出外食など柔軟に対応している。又、家族との病院受診が利用者の身体の低下等により困難な場合は家族の要請に応じ公用車での送迎等の柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会、民生委員、愛育班など連携を継続し、サロン会や季節行事等へ参加する機会がある。又、運営推進会議に参加して頂く事で地域の情報を得たりホームの現状報告において認知症への理解などへつなげるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望される、かかりつけ医への受診の継続の支援を行っている。家族だけの受診が困難な方へは公用車での送迎の支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェックを実施し、体調不良や気づきなど観察を行い、看護師へ報告し対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人との面会を行い病状の経過の把握に努めている。認知症状の混乱など見られる場合は医療機関や家族と病状経過状況を見ながら隊員に向けての話し合いなど連携を持ち対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、契約時に家族との話し合いをされている。本人の病状の経過に伴い家族、医療機関と話し合いを重ねながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署や業者の協力を得て、AED 心肺蘇生、応急手当など研修を行い実践に対応できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月、気両者を交えて避難訓練を実施し、地震、水害、火災など場面を変え行なっている。消防署や業者の協力での消火訓練やマニュアル作成での避難訓練を定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活の様子を見ながら、援助が必要な場合は、さりげなく見守ったり言葉かけや援助をし、を誇りやプライバシー損なわないような対応に気をつけ対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が理解できるような言葉かけや難聴な方へは身振り手振り、等談などを行い本人の思いや希望が自身で決定できるように働きかけに努め、日頃の利用者の様子を把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態を見ながら、興味がわかれるようなこと、得意なことに目を向けて作業やレクリエーションを楽しんで頂いたり散歩など本人にお応じた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の気分で服を選ばれるよう衣替えや整理整頓を行っている。本人の好みの色や柄などの服を準備し選んでもらうよう支援している。本人が着やすい服など家族へ相談し準備をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に下ごしらえや配膳の準備、片付けなどして頂いている。食事を共にとることで献立の内容を話し、要望の聞き取り等で食事の楽しみができるようにしている。利用者に応じた形態で準備し誤嚥がないように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立を準備し利用者に応じた料や形態で調理し食べ易く飲み込み易く準備している。水分量が少ない利用者にはお茶以外の飲み物やゼリー状にも工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを洗浄を促したり磨きなおしの支援を行い、うがいができられない方は歯ブラシスポンジで洗浄の支援や水分を多めに摂って頂くよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄はできる方は排泄記録を見ながら声掛けや誘導の支援を行いおむつ使用の方は定時の汚染の確認で洗浄清拭を実施している。使用者のしぐさや言動など察知しトイレへの声掛け支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の食材を工夫し、水分を多めに摂って頂く様にしたり、本人の体調を見ながら適度な歩行や運動に参加してもらうように支援支援している。主治医へ相談しカマグを処方して頂き調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態を確認し、本人の意向を聞き入浴の支援をしている。本人の状況に応じて、入浴の方法を選び足浴、シャワー浴、清拭などでここに支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向や体調など考え、自由に居室で休息されている。日中はレクリエーションや作業などへ参加して頂き適度な活動にて日中のメリハリをつけて頂き、安心して気持ち良い眠れるように支援し、寝具は清潔な物を準備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の服薬内容を理解し、減薬や増薬時は申し送り記録での情報の共有に努めている。錠剤での服薬が困難な時は医師に相談し形状の変更をして頂いたり服薬ゼリーの活用で確実な与薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力に応じて洗濯たたみや洗濯干しなど作業内容を変え、役割や分担を持って頂くように支援している。本人が貢献しているという喜びや達成感を味わって頂き、必ず感謝の言葉を伝えている。計算ドリル、色塗り、点つなぎ等、本人がお好きなことに取り組まれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、外出や外食などの支援を行っている。地域行事などへ参加し交流できるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては、近隣の店舗にてお金を所持し、買い物をする機会が持てた。広告やパンフレットを利用者とみることによって個々の欲しい物食したい料理など要望を聞くことにつなげている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日誕生日に贈り物が届いた時は、家族と電話お話をされたり、お便りに写真を添付し家族へ送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示板に検索したハリエや季節ごとの写真など掲示している。案内板を取り付けたり、居室の入り口に名札をつけわかりやすく配慮している。空調管理は利用者の方に尋ね温度調整を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の好きな場所に着席されたり、利用者に尋ねて誘導を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたタンスやテレビなど配置され、利用者によっては、仏壇やご位牌など飾られ安心されている。写真や植物なども自由に飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が安全にできるような手すりの設置をし案内板をつけることで場所を分かり易くしている。		